

学生ボランティア活動報告

英語サークル

生活科学学科 生活情報専攻 1回生
笹木 瑞希

私たちは2016年8月10、19、23、24日に福井市森田地区の児童館及び3つの児童クラブで、小学生を対象とした英語教室を開催しました。まだ英語を聞いたり話したりする機会が少ない子どもたちにどのようにしたら英語を楽しく学んでもらえるか考え、英語を使った歌を歌ったり、ゲームをすることにしました。

まずは英語の歌“If You're Happy and You Know It [幸せなら手をたたこう]”を、体を動かしながら一緒に歌いました。みんな笑顔で体を動かしていて、とても嬉しかったです。

その後、子どもたちとグループを作り、英語で道案内をするというゲームをしました。“Go straight! [まっすぐ進んで!]”といった指示をしっかりと聞いて、子どもたちがどンドン目的地に向かっていく姿を見て、私たちは思わず、「すごい!」と拍手をしてしまいました。

また、8月26日に開催した森田公民館における英語教室では、英語を使ったメッセージカードを作成してもらいました。子どもたちが大好きな家族や友達を思いながら作ったカードは、どれも素晴らしかったです。

英語教室を始める前は、子どもたちが英語に対して苦手意識を持たずに最後まで楽しんでくれるか心配でした。しかし、歌やゲームを通して英語に触れ、私たちとの英語を使ったコミュニケーションを子どもたちがすごく楽しんでくれている様子を見て、嬉しかったです。中には恥ずかしがり屋の子や、なかなか英語を発することができない子もいましたが、私たちが笑顔で教え、一緒に楽しむことで、英語に興味を持ってもらうことができました。英語を話すことや聞くことは簡単ではありませんが、子どもたちとのふれあいを通して、何よりも笑顔で楽しく英語を学習していけば、英語が好きになり、話してみたいくなるのではないかと思います。また来年も英語教室を行って、より多くの子どもたちが英語に親しんでくれるといいなと思います。



パソコンボランティアサークル

サークル長:生活科学学科 生活情報専攻 2回生
川崎 祐生

仁短パソコンボランティアサークル(以下、パソボラ)は、鯖江市社会福祉協議会鳥羽事業所「なかま」にて、2ヶ月に1回程度のペースで「障がい者のためのパソコン相談会」を主催する等の活動をしています。

私がこのパソボラに入ったのは、何か人の役に立ちたいと思ったことがきっかけです。パソボラでは、パソコン相談会で障がい者の方にパソコンの操作方法を教えたり、さばえボランティアまつりで子ども達にバルーンアートを教えたりなどの活動をしました。みなさん楽しんだり喜んだりしてくれたので、とても嬉しかったです。ボランティア活動を通して、どうしたら受け手の人に喜んでもらえるのかを考えて行動することが一番大切だと感じました。普段の生活でも相手の気持ちを考えて行動していきたいです。



鯖江市 社会福祉協議会鳥羽事務所「なかま」

会計:生活科学学科 生活情報専攻 2回生
北畑 朋未

自分たちが学校で習得したパソコンスキルを活かして、人に教える場でボランティア活動できたことは、とても嬉しいことだと思います。相談者はとても熱心な方達ばかりで、私たちよりも知識をお持ちの方がいて、私たちも勉強させて頂きました。2回目以降、私の名前を覚えてくださる方ばかりでとても嬉しかったです。相談者との雑談の中でも、これからの就職のことや勉強の仕方などアドバイスを頂きました。年上の方と交流する機会は貴重なので、いい経験になりました。

写真サークル

生活科学学科 生活情報専攻 2回生
網田志緒里・飯田彩由里・伊藤 千紘

写真サークルでは28年度、様々な機会をとらえて写真の展示をさせていただきましたが、その中で共通の取り組みがあります。それは、2年前の大地震で被災したネパールの復興支援・教育支援のための募金の呼びかけです。



平成28年3月から4月にかけて、福井市まちづくりセンター「ふく+」、アオッサ5階「子育て支援室ギャラリー」にて写真展「Happiness - 今そこにある幸せ」を開催させていただきました。また、4月9日に開催された大学連携センターオープニングフェスティバルにも大学の写真サークルとしてブース出店。これまで撮影した写真に加えて、会場で撮影した当日の風景・人物写真をその場で印刷しパネルに展示していくという新たな試みも行いました。10月にはJR森田駅の夢ギャラリー、森田文化祭の小学校会場にて写真の展示をさせていただきました。

いずれの写真展会場でも、ネパールの写真展示と募金箱の設置を行い、多くの方々からあたたかい支援をいただきました。集められた募金は1月31日に福井ネパール会事務局を通じてネパールの復興・教育支援に届けられます。皆様のご理解・ご協力ありがとうございました。
(文責:顧問 澤崎敏文)



折り紙サークル

幼児教育学科 2回生
柿木 さとみ

折り紙サークルでは、主に折り紙の作品や、季節にあわせた壁面を年間で6枚つくったり、年2回ほど地域のボランティアに参加したりしています。この季節の壁面は、福井大学医学部の附属病院に入院している子どもたちに提供しており、ちいさな社会貢献となっています。

サークル活動を通して、仕事を人数分おなじように分担することの難しさを学びました。私達をつくる壁面はメインとなる動物などを色画用紙でつくり、お花や果物など飾りとなるものを折り紙でつくります。折り紙はすぐに出てしまうのですが、メインの動物は顔の輪郭や目の大きさ、位置で大きく印象が変わってしまうので、製作にとっても時間がかかります。動物の方は、人数が多すぎてもそれぞれのイメージにずれがうまれて上手いかわなくなってしまうことから、割合的には折り紙の方が圧倒的に多く、そうなるとうちに折り紙の方の活動が終わってしまうので、そのバランスが難しかったです。

計画していた内容をすべてはできず残念でしたが、みんな毎回協力的に動いてくれて、サークル内の仲はさらに深まったと思います。



ボランティアサークル

幼児教育学科 2回生 揚原 瑠

今年度は公立図書館で月1、2回、図書館を利用している児童・乳幼児とその保護者の方々を対象に、手遊び、絵本の読み聞かせや紙芝居、制作や簡単なゲームなどをして遊ぶ活動が中心でした。

また、ハピリンでの学生交流のボランティア活動や、子ども虐待防止オレンジリボン運動のイベントにも参加しました。



図書館での活動のとき、「今日の活動はおもちゃの制作をしよう」と考えて用意していったのに、実際の参加者は赤ちゃんばかりで、急遽、遊びの内容や手遊びや絵本の種類も全て変えるということがありました。相手に合わせて臨機応変に対応することの大切さを学ぶ経験となりました。

ボランティアとは、相手に対して遊びや物などを提供することが目的であると考えていましたが、活動に何回か参加していくうちに、相手からエネルギーや笑顔、将来に役立つヒントなど様々なものを自分を与えるより何倍も受け取っていることに気付きました。ボランティア活動を通してたくさんのことを感じたり、考えたりすることができました。この経験を大切にしたいと思います。

おもちゃサークル

幼児教育学科 2回生 南出 帆摘

6月に開催された「木のおもちゃ博〜ふくい木育キャラバン〜」で、たくさんの木のおもちゃを通して子どもたちとふれあい、安全に遊ぶことができるよう見守るボランティア活動を行いました。

木育キャラバンでは、日本国内だけでなく世界中から集められたたくさんの木のおもちゃに触れることができました。また、おもちゃを通して、子どもたちや保護者の方々と交流することができました。ただの四角いつみきも子どもたちにとっては立派なおもちゃで、想像力豊かに遊んでいました。1つのおもちゃでも様々な遊びのバリエーションがあり、一人ひとり違う遊びをしているのを見て、驚きとともに勉強になりました。

会場にはたくさんの方が来られていて、一人ひとりとじっくり遊ぶということはできませんでしたが、子どもたちは、大人では考えられない発想で遊んでいました。たくさん子どもたちとその場その場での関わりができ、保育園等での実習とはまた違った楽しさがありました。

